

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業（やすらぎ・いたわり）

「函館の子どもたちの健康と未来を考える食育プロジェクト」事業

食育や貧困対策の一環である子ども食堂を通して社会的課題のフードロスを地域全体で考える

子どもの貧困対策や地域の人々の居場所づくりとして期待され、日本各地で取り組みが進められている子ども食堂だが、新型コロナの影響で苦境に立たされた実施団体や機関は多い。そんな状況下、様々な工夫をしながら開催を続け、さらにフードロスという社会的課題の解決と結びつける試みに挑んだ団体が、北海道函館市にある。



「にこにこ子ども食堂」の開催を告知するチラシと食堂の様子。コロナ禍でテイクアウトや食材配布に切り替えて実施

子ども食堂の実施やイベント開催で社会的課題の解決に挑む

函館市に拠点を置く「北海道国際交流センター（HIF）」は、人と人との交流を通じて国際相互理解教育の推進と世界の平和に貢献することを目的に、留学生のホームステイプログラムや海外で日本語を勉強する学生向けの日本語教育、在住外国人向けの多文化共生事業、生活困窮者自立支援・学習支援、フリーペーパーの発行、環境保全活動など、多岐に渡る事業を行っている。

同団体によれば、函館市では母子世帯の割合が北海道内の平均よりも高い18.7%となっていて、それに伴い貧困リスクが高く、なかには日々の栄養を給食に頼っている子どもも多く、夏休みや冬休みなどの長期休み中に家で

ごはんを食べることができず、やせ細っている子どももいる。また、函館市の食品ロス発生量は年間4,076トンで、そのうち食べ残しは2,566トンとなっていて、市民1人あたりに換算すると、1日約43.5グラムが廃棄されていることになり、食料廃棄問題は地域のなかでも重要な課題となっている。

そこで同団体では、子ども食堂を通じ、子どもの貧困対策やフードロス削減などの社会的課題解決へ貢献するための活動に取り組むことを決定。毎週金曜日（16:30～18:00）に「にこにこ子ども食堂」を開催するとともに、フードロスをテーマとしたイベントを開催したり（計4回、参加者は延べ約140名）、SDGs（持続可能な開発目標）を掲げた「SDGsマルシェ」というイベントに出展したりした。なお、「にこにこ子ども食堂」は全部で45回開催され、参加人数は

1,291名（累計）にのぼった。コロナ禍でやむを得ず開催できないときもあったが、テイクアウトや食材配布に切り替えるなど柔軟に活動に取り組んだという。

子どもの食育やフードロスの問題を地域全体の課題として考える必要性

子ども食堂は食事の提供だけではなく、地域の人たちの交流の場など食事以外での役割も担っていたが、新型コロナによってその居場所づくりやイベント開催などを制限しなくてはならないことが本当に残念だったと、同団体では話す。その一方、フードロスをテーマとした講演会には企業の方も多く参加し、熱心に講師の話聞く姿も見受けられ、地域のなかで社会課題をとらえ学び合う良い機会になったと、同団体では振り返る。

「新型コロナの影響で食材のロスが発生したホテルなどから、経営が大変な状況にも関わらず子どもたちのために有効に使ってもらえるなら食材を提供していただくなど、

生きることの基本である食べることに對して様々な善意が持ち寄られ、自分たちの活動ができていることを実感しました。食料廃棄問題について地域で話し合い、学ぶ機会をつくり続けることで、企業だけではなく個人のフードロスに対する意識を高めていくことが課題解決に近づくために必要であり、将来を担う子どもたちへの食育に関しても課題解決の重要な役割を果たすということを地域全体で共有していきたい」と、事業の担当者は将来について語った。

今後は地域に合った新しい子ども食堂のスタイルを模索しながら、さらにネットワークを広げ、必要としている人に支援が届く仕組みづくりを強化することが課題だが、今回の助成のおかげで実現できたリーフレットの製作、のぼりの設置などを通じて、子ども食堂の存在やイベント開催の周知ができ、地域の方々や子どもたちと貴重な時間や機会を共有できたことは、とても有意義だったという。



フードロスをテーマとしたイベントの開催を告知するチラシ



「SDGsマルシェ」イベントにも出展

助成団体:一般財団法人 北海道国際交流センター

<http://www.hif.or.jp>



事業の実施にあたり様々なお力添えをいただき、感謝しております

全国各地で子ども食堂を運営する方々にとって、このような助成は大変ありがたいものです。今後も子ども食堂を通して、地域の子もたちや大人にも食べ物の大切さ、人々との助け合いやつながりの大切さを伝えることができるよう、子どもたちに対する食育や持続可能な居場所づくりのために活動を続けていきたいと思ひます。

一般財団法人 北海道国際交流センター
企画広報セクション・コーディネーター 吉村 美悠さん